USA's primary source for projector lamps

myprojectorlamps

プロジェクター所有者の取扱説明書

BenQ

MP510

このプロジェクターの交換用ランプが必要ですか？

www.mplamps.co.jp

メーカーオリジナル取扱説明書。MyProjectorLamps.comの厚意として、修正せずに提供しています。
すべての商標は、それぞれの所有者の所有物です。

mplamps.co.jp
プロジェクターランプ業界最大級のオンラインショップ

プロジェクターランプの交換時ですか？

お使いのBenQ MP510の交換用ランプは、現在入手可能です。



BenQ MP510プロジェクターランプ

部品番号：5J.01201.001
モジュール付きのオリジナルランプ（取付準備完了）
180日間保証

21,930円から

コードをスキャンするかアクセスする

www.mplamps.co.jp/projector-lamps/Benq/MP510.html

表示価格は、このページが作成された時の価格です。現在の価格はサイトをご確認ください。

BenQ

MP510 デジタル プロジェクタ
メインストリーム シリーズ
取扱説明書

Welcome

目次

安全上のご注意 4

紹介 8
- プロジェクタの特長 8
- パッケージ内容 8
- プロジェクタ外観ビュー 9
- 制御装置および機能 10

設置 14
- 場所の選択 14
- スクリーンサイズの調整 15

接続 18
- コンピュータの接続 18
- ビデオ機器との接続 19

操作 22
- 起動 22
- パスワード機能の使い方 23
- 入力信号の切り替え 26
- 投写イメージの調整 27
- 画像の最適化 30
- プレゼンテーションタイマーの設定 32
- 画像を隠す 33
- 画像の静止 34
- 高地での操作 34
- プロジェクタの終了 34
- メニューの操作 36

メンテナンス 44
- プロジェクタのお手入れ 44
- ランプについて 45

トラブルシューティング 51

仕様 52
- プロジェクタの仕様 52

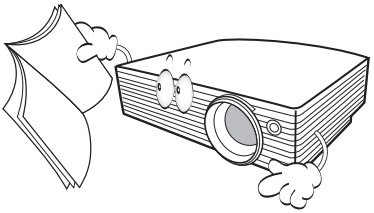
タイミングチャート 53
保証及び著作権 54
限定保証 54
著作権 54
免責 54
法規 55
FCC 規則 55
EEC 規則 55
MIC 規則 55
WEEE 指令 55

1. 安全上のご注意

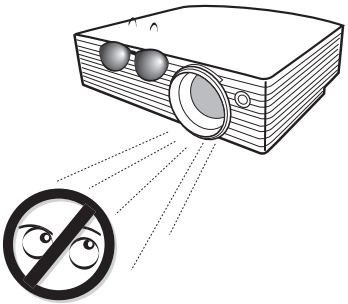
お使いの BenQ プロジェクタは、情報テクノロジ機器の最新の安全規格に適合するように設計され、テストされています。ただし、本装置を安全にご使用いただくために、このガイドおよび装置のマークに記載されている指示に従ってください。

安全上のご注意

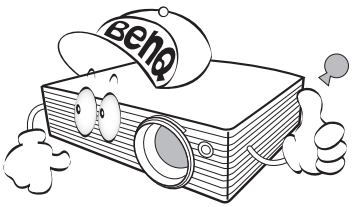
1. **プロジェクタを操作する前に、このユーザーズガイドをお読みください。**またいつでも参照できるように、手の届く場所に保管しておいてください。



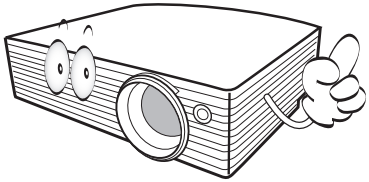
2. **動作中は、プロジェクタのレンズを覗き込まないでください。**光線が強力なので、視力障害を引き起こす恐れがあります。



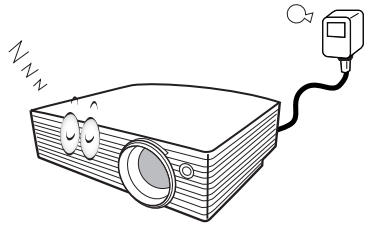
3. **点検修理については、認定サービス担当者にお問い合わせください。**



4. **プロジェクタのランプをオンにするときは、必ずレンズシャッターを開くか、レンズキャップを取り外してください。**



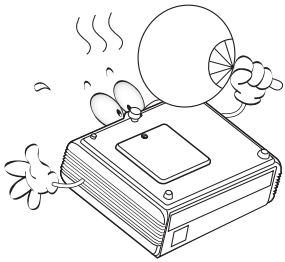
5. 国や地域によっては、電源電圧が一定していない場合もあります。プロジェクタは、電源が AC100 ～ 240V の電圧範囲のときに安全に作動するように設計されていますが、停電や ± 10V のサージが発生すると故障する可能性があります。**電源の電圧が変動したり、電源供給が中断したりする地域では、電源安定器、サージプロテクタ、または無停電電源装置 (UPS) にプロジェクタを接続することをお薦めします。**



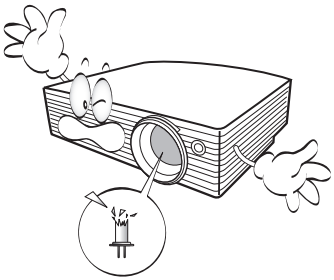
6. プロジェクタが作動しているときに投写レンズを物体で塞ぐと、それが過熱して変形したり、火災の原因となったりします。一時的にランプをオフにするには、プロジェクタかリモコンの **BLANK (ブランク)** ボタンを押してください。

安全上のご注意（続き）

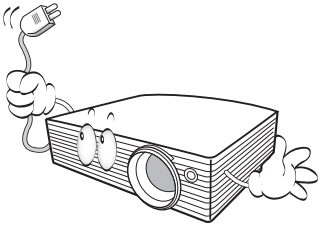
7. ランプは、動作中に非常に高温になります。ランプ部を取り外して交換する場合は、プロジェクタの電源を切ってから 45 分間ほど放置して、プロジェクタを常温に戻してください。



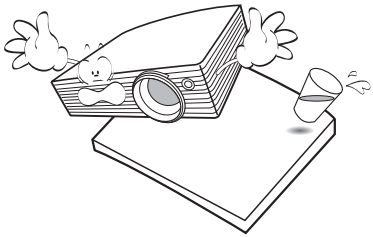
8. ランプは定格寿命より長く使用しないでください。ごくまれですが、定格寿命より長く使用すると、ランプが破裂することがあります。



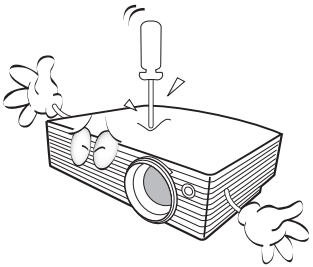
9. ランプ部や電子部品の交換は、必ずプロジェクタの電源プラグを抜いてから行ってください。



10. 本製品は安定した場所に設置してください。本製品が落下して、重大な損傷を受ける恐れがあります。

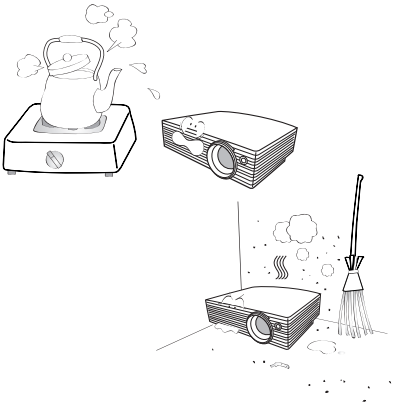


11. 本機を解体しないでください。内部には危険な電圧が流れており、触れると死に至る場合もあります。ユーザーが補修できる部分は専用の取り外し可能なカバーが付いているランプだけです。いかなる状況においても、これ以外のカバーをご自身で取り外そうとしないでください。補修については、指定された専門の技術者にお尋ねください。

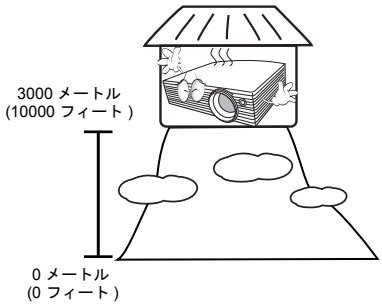


安全上のご注意（続き）

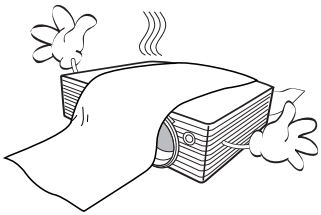
12. 次の場所に本装置を置かないでください。
    - 通気が不十分な場所または密閉されている場所。壁との間隔を 50cm 以上空けて、プロジェクタの周辺の風通しをよくしてください。
    - 窓を締め切った車内など、非常に高温になる場所。
    - 非常に湿度が高い場所、ほこりの多い場所、タバコの煙にさらされる場所。このような場所に置くと、光学部品が汚れ、プロジェクタの寿命が短くなり、画像が暗くなります。



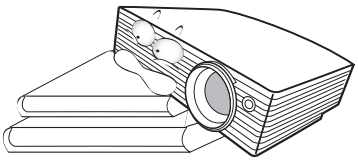
    - 火災報知器に近い場所。
    - 周辺温度が 40ºC / 104ºF を超える場所。
    - 高度が 3000 メートルを超える場所。



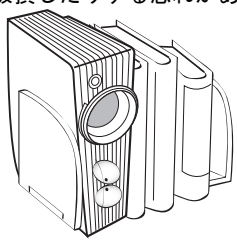
13. 通気孔をふさがないでください。
    - 本製品を毛布などの寝具類、または他の柔らかい物の上に置かないでください。
    - 本製品の上に布などをかぶせないでください。
    - プロジェクタの近くに可燃物を置かないでください。



    通気孔がふさがれると、プロジェクタの内部が過熱し、火災が発生することがあります。
14. 使用時は必ず装置を水平な平面上に置いてください。
    - 左右の傾きが 10 °、または前後の傾きが 15 ° を超える状態で使用しないでください。完全に水平になっていない状態でプロジェクタを使用すると、ランプが故障したり損傷することがあります。

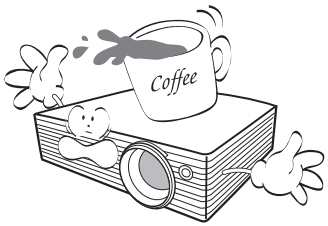


15. 装置を縦向きにしないでください。縦向きにするとプロジェクタが倒れ、けがをしたり、プロジェクタが破損したりする恐れがあります。

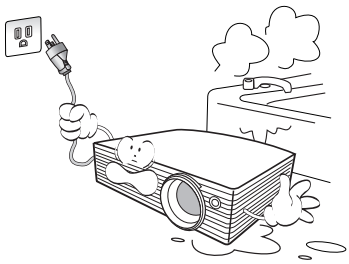


安全上のご注意（続き）

16. 装置の上に乗ったり、物を置かないでください。装置が物理的に損傷するだけでなく、事故やけがの原因になります。

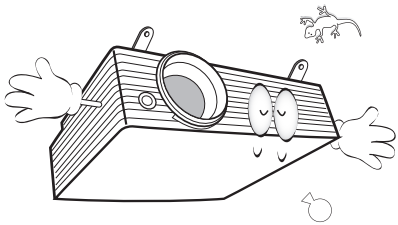


17. プロジェクタの上または近くに液体を置かないでください。プロジェクタ内部に液体がこぼれると故障の原因になります。プロジェクタを濡らした場合は、電源コンセントからプロジェクタを外し、BenQ にご連絡の上プロジェクタの点検をご依頼ください。



18. 本製品を天井に取り付けて、イメージを反転投写することができます。

⚠ **天井に取り付ける場合は、BenQ の天井取り付けキットを使用し、しっかりと固定してください。**



19. プロジェクタが稼動しているときには、通気孔から熱風と臭気を感じる場合があります。これは正常な状態であり、製品の欠陥によるものではありません。

プロジェクタを天井に取り付けるための安全上のご注意

BenQ プロジェクタを安心してお使いいただくために、ここに記載する注意をよくお読みになり指示にしたがってください。

プロジェクタを天井に取り付ける場合は、BenQ プロジェクタ専用天井取り付けキットをお使いになり、しっかりと確実に設置してください。

BenQ プロジェクタ以外の天井取り付けキットをお使いになると、ゲージやネジの長さが正確でないためプロジェクタが正しく固定されず落下してしまう恐れがあります。

BenQ プロジェクタ専用天井取り付けキットは、BenQ プロジェクタを購入された販売店でお買い求めいただけます。また別途ケンジントンロックをお求めになり、プロジェクタのケンジントンロックスロットと天井取り付けブラケットのベースをセキュリティケーブルでしっかりと繋いでおくことをお薦めします。このようにしておくと、万一天井取り付けブラケットが緩んでしまった場合にも、プロジェクタを補助的に支えることができます。

2. 紹介

プロジェクタの特長

このプロジェクタは高性能な光学エンジン投写技術とユーザーフレンドリーな設計を統合しており、高い信頼性と使いやすさを実現しています。

プロジェクタには次のような特長があります。

- あらかじめ定義したいくつかの色の面に投写できる壁色補正機能
- パスワード保護機能の選択
- 携帯性に優れたコンパクト設計
- 最善の画質で表示するワンキー自動調整機能
- イメージの歪みを補正するデジタルキーストーン補正機能
- データ / ビデオ表示を調整可能なカラーバランスコントロール
- 1670 万色の表示能力
- 多言語のオンスクリーンディスプレイ (OSD) メニュー
- 消費電力を節約する標準 / 省電力モードの切り替えが可能
- コンポーネント HDTV 対応 (YPbPr)
- 異なる目的に対応できる最高 7 セットのピクチャモード

☞ • **投写イメージの明るさは、周辺光の状態および選択した入力ソースのコントラスト / 輝度設定によって変わります。また投写距離の影響を直接受けます。**

• **ランプの明度は時間の経過に伴い暗くなります。また明度はランプ製造元の仕様によって異なります。これは異常ではなく、正常で予期される変化です。**

パッケージ内容

プロジェクタには、PC への接続に必要なケーブルが同梱されています。丁寧に開梱し、次に示すものがすべて揃っていることを確認してください。不足しているものがある場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

標準パッケージリスト

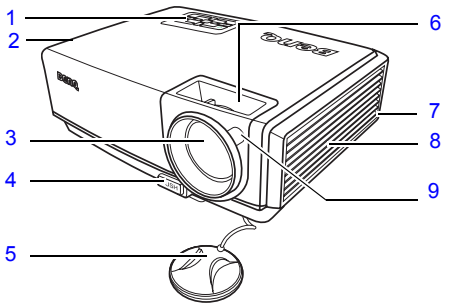
1. プロジェクタ
2. カードタイプのリモコンおよび電池
3. ユーザーズガイド
4. クイックスタートガイド
5. 多言語ユーザーズマニュアル CD
6. VGA ケーブル
7. 電源コード

別売りアクセサリ

1. スペアランプキット
2. 天井取り付けキット
3. Presentation Plus
4. 携帯用ソフト ケース

プロジェクタ外観ビュー

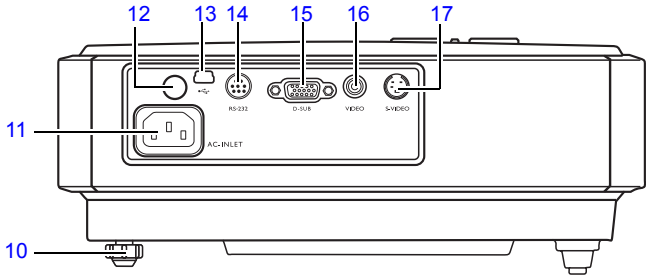
前面 / 上面



1. 外部コントロールパネル
   詳細は、10 ページの " プロジェクタ " を参照してください。
2. 通気 (熱気排出)
3. 投写レンズ
4. クイックリリースボタン
5. レンズキャップ
6. ピントリング
7. 盗難防止用ケンジントンロック スロット
8. 通気 (冷気取り込み)
9. 前面赤外線リモートセンサー

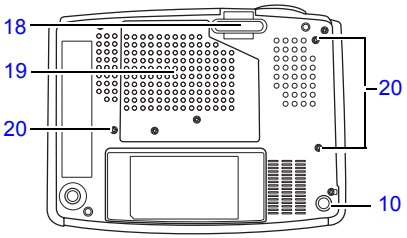
背面

18 ページの " 接続 " を参照してください。



10. 背面アジャスタ フット
11. AC 電源コード差し込み口
12. 背面赤外線リモートセンサー
13. USB ソケット (補修用)
14. RS232 コントロールポート
15. RGB (PC) / コンポーネントビデオ (YPbPr/YCbCr) 信号入力ソケット
16. ビデオ入力ソケット
17. S ビデオ入力ソケット

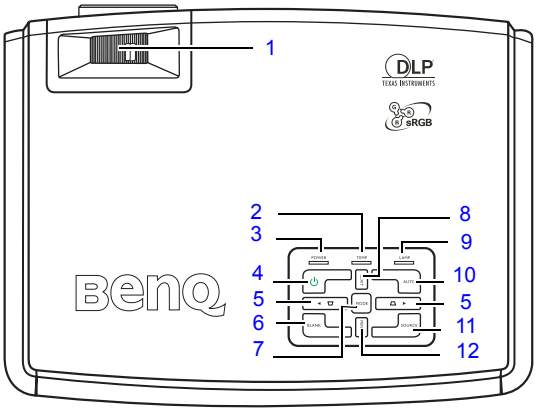
底面



18. クイックリリース フット
19. ランプカバー
20. 天井取り付け用ネジ穴

制御装置および機能

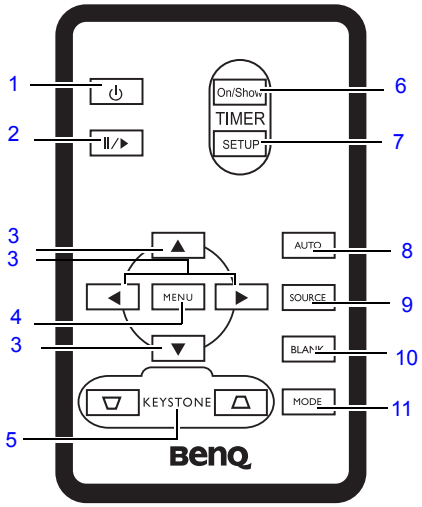
プロジェクタ



1. **ピントリング (詳細は、28 ページの " 画像の明瞭さの微調整 " を参照してください)。**
   投写イメージの焦点を調整します。
2. **TEMP (温度) 警告ライト (詳細は、49 ページの " インジケータ " を参照してください)。**
   プロジェクタの温度が異常に高くなると赤く点灯します。
3. **POWER (電源) インジケータライト (詳細は、49 ページの " インジケータ " を参照してください)。**
   プロジェクタ動作中に点灯または点滅します
4. **電源 (詳細 22 ページの " 起動 " と 34 ページの " プロジェクタの終了 " を参照してください)。**
   プロジェクタのオン / オフを切り替えます。
5. **キーストーン / 矢印ボタン (▽ / ◀左、△ / ▶右)**
   投写角度によって生じる画像の歪みを手動で修正します。
   任意のメニューを選択し、調整を行ってください。
   詳細は、27 ページの " キーストーンの補正 " と 37 ページの "OSD メニューの使用方法 " を参照してください。
6. **BLANK (ブランク) (詳細は、33 ページの " 画像を隠す " を参照してください)。**
   スクリーンのイメージを消すために使用します。

7. MODE (モード) (詳細は、30 ページの " 画像モードの選択 " を参照してください)。
   各入力で有効な、あらかじめ定義されている画像設定を順番に選択することができます。
8. ▲EXIT (終了) (詳細は、37 ページの "OSD メニューの使用方法 " を参照してください)。
   終了し、メニューの設定を保存します。
   任意のメニューアイテムを選択します。
9. LAMP (ランプ) インジケータ ライト (詳細は、49 ページの " インジケータ " を参照してください)。
   ランプの状態を表示します。ランプに問題が発生した場合に点灯または点滅します。
10. AUTO (自動) (詳細は、28 ページの " イメージの自動調整 " を参照してください)。
    表示画像に最適な画像タイミングを自動的に決定します。
11. SOURCE (ソース) (詳細は、26 ページの " 入力信号の切り替え " を参照してください。)
    入力信号を D-Sub/Comp. (コンポーネントビデオ) 、S ビデオまたは ビデオの順に選択します。
12. ▼MENU (メニュー) (詳細は、37 ページの "OSD メニューの使用方法 " を参照してください。)
    オン スクリーン ディスプレイ (OSD) メニューをオンにします。
    任意のメニューアイテムを選択します。

リモートコントロール



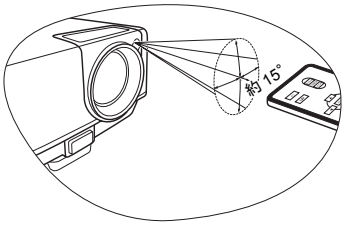
1. **電源 (詳細 22 ページの " 起動 " と 34 ページの " プロジェクタの終了 " を参照してください)。**
   プロジェクタのオン / オフを切り替えます。
2. **||/▶ 一時停止 (詳細は、34 ページの " 画像の静止 " を参照してください)。**
   投写イメージを一時的に停止させます。
3. **▲ 上、▼ 下、◀ 左、▶ 右 (詳細は、37 ページの "OSD メニューの使用方法 " を参照してください)**
   オンスクリーンメニュー (OSD) が有効になった場合、これらのボタンを方向指示のボタンとして使用し、メニュー項目の選択や調整を行います。
4. **MENU (メニュー) (詳細は、37 ページの "OSD メニューの使用方法 " を参照してください)。**
   オンスクリーン メニューを表示または非表示にします。
5. **KEYSTONE (キーストーン) (詳細は、27 ページの " キーストーンの補正 " を参照してください)。**
   投写角度によって生じる画像の歪みを手動で修正します。
6. **TIMER On/Show (タイマーオン / 表示) (詳細は、32 ページの " プレゼンテーションタイマーの設定 " を参照してください)。**
   タイマー設定に基づいて、オンスクリーン タイマーを有効にするか、表示します。
7. **TIMER SETUP (タイマー設定) (詳細は、32 ページの " プレゼンテーションタイマーの設定 " を参照してください。)**
   プレゼンテーション タイマーの設定を直接行います。
8. **AUTO (自動) (詳細は、28 ページの " イメージの自動調整 " を参照してください)。**
   表示画像に最適な画像タイミングを自動的に決定します。
9. **SOURCE (ソース) (詳細は、26 ページの " 入力信号の切り替え " を参照してください)。**
   入力信号を D-Sub/Comp. (コンポーネントビデオ) 、S ビデオまたは ビデオの順に選択します。
10. **BLANK (ブランク) (詳細は、33 ページの " 画像を隠す " を参照してください)。**
    スクリーンのイメージを消すために使用します。リモコンのキーをどれでも押すと、イメージが戻ります。
11. **MODE (モード) (詳細は、30 ページの " 画像モードの選択 " を参照してください)。**
    各入力で有効な、あらかじめ定義されている画像設定を順番に選択することができます。

リモコンの有効範囲

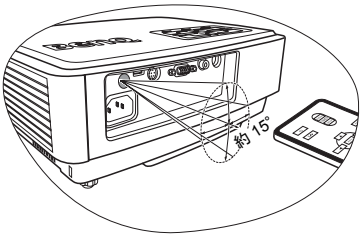
赤外線 (IR) リモコンセンサは、プロジェクタの前面と背面にあります。リモコンを正しく機能させるには、プロジェクタの IR リモコンセンサに対して 30 度以内でリモコンを使用する必要があります。リモコンとセンサの間の距離は、6 メートル (20 フィート) を超えないようにしてください。

リモコンとプロジェクタの間に赤外線を遮断する障害物がないかどうかを確認します。

- **正面からの操作**



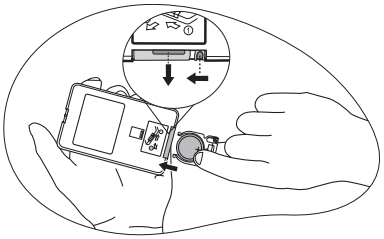
- **背面からの操作**



リモコンの電池の交換

1. 電池ケースを引き出します。

図に従ってください。ロックラッチを押したままバッテリーホルダを引き出します。



2. 新しい電池をケースに挿入します。プラス極が外側を向くように挿入してください。
3. ケースをリモコンに押し込みます。

- **高温多湿の場所に置かないでください。**
- **電池は正しく取り扱わなければ、破損の原因となります。**
- **使用済みの電池は、同じタイプの電池か、メーカーが推奨する同等タイプの電池と交換してください。**
- **また、使用済みの電池は電池メーカーの指示に従って処分してください。**
- **電池は絶対に火に投げ込まないでください。爆発する恐れがあり大変危険です。**
- **電池が消耗したり、長時間リモコンを使用しない場合は、液体が漏れないようにリモコンから電池を外してください。**

3. 設置

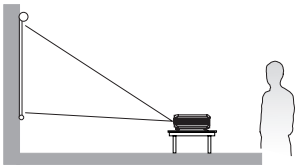
場所の選択

本機は次の 4 通りの設置状態で使うことができます。

1. 前面投射
2. 前方天井
3. リア投射
4. 後方天井

1. 前面投射

プロジェクタをスクリーンの正面に床面近くに設置します。これが最も一般的な設定です。

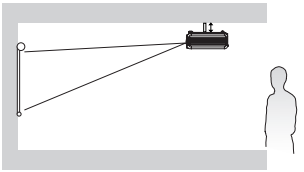


2. 天井前面投射

プロジェクタを上下逆さにスクリーン正面の天井に取り付けます。

この方法で設置する場合は、BenQ プロジェクタ天井取り付けキットをご購入ください。

プロジェクタをオンにした後、 **詳細** > **ミラー** メニューで を設定します。

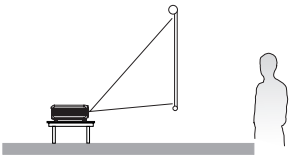


3. リア投射

プロジェクタをスクリーン背面、床面近くに設置します。

専用の背面スクリーン投写が必要です。

プロジェクタをオンにした後、 **詳細** > **ミラー** メニューで を設定します。

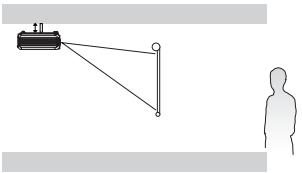


4. 天井リア投射

プロジェクタを上下逆さにスクリーン背面の天井に取り付けます。

専用の背面投写スクリーンと BenQ プロジェクタ天井取り付けキットが必要です。

プロジェクタをオンにした後、 **詳細** > **ミラー** メニューで を設定します。

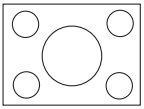


部屋のレイアウトやお好みで、どの設定で設置するか決めてください。設置する際は、スクリーンのサイズや位置、電源コンセントがある場所、プロジェクタとその他の装置の距離や位置などを考慮してください。

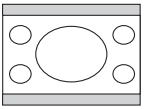
スクリーンサイズの調整

投写距離、ビデオフォーマットにより投写画面サイズは変化します。

このプロジェクタのネイティブ解像度は 800 x 600 ピクセルであり、縦横の比率が 4：3 です。縦横比 16：9 (ワイドスクリーン) の画像を完全に映し出すために、ワイドスクリーン画像をプロジェクタのネイティブ幅にリサイズすることができます。このようにすると、高さがプロジェクタのネイティブの高さの 75% に縮小されます。



縦横比 4：3 の表示エリアに投写した縦横比 4：3 の画像



縦横比 4：3 の表示エリアにリサイズして投写した縦横比 16：9 の画像

したがって、縦横比 16：9 の画像はこのプロジェクタで表示できる縦横比 4：3 のうち、高さの 25% を使用せずに表示することになります。リサイズした 16：9 画像を 4：3 表示エリアの縦方向の中央に表示したとしても、4：3 表示エリアの縦方向 12.5% に相当する使用されないこの部分は、黒いバーで表示されます。

プロジェクタの位置を決定する際、使用目的および入力信号の縦横比を考慮に入れる必要があります。すべての入力信号 (16：9 信号を入力するコンポジットビデオ以外) は、4：3 の縦横比で表示されます (リサイズした 16：9 画像の表示エリアよりもさらに 33% 多い表示高が必要です) 。

☞ **重要：入力信号を選択する必要がある場合は (16：9 信号を入力するコンポジットビデオ以外) 、16：9 をベースとした位置にプロジェクタを固定しないでください。**

プロジェクタは必ず机の上などに水平に配置し、スクリーンの水平方向の中央に対して直角になるように設置してください。このように設置することによって、角度を付けて投写 (または角度が付いた面に投写する場合) すると生じる画像の歪みを防止することができます。

新しいデジタルプロジェクタはまっすぐに画像を投写しません (例：古いリール・トゥ・リール式のフィルムのプロジェクタ) 。代わりに、デジタルプロジェクタはプロジェクタの水平面に対し、やや上向きに角度を付けて投写します。これは机の上に配置したとき、スクリーンの下端が机のレベルよりも上になるよう (また室内の全員がスクリーンをはっきりと見えるように) にするためです。

プロジェクタを天井に取り付ける場合は、プロジェクタがやや下向きに角度を付けて投写するように上下逆さまに取り付ける必要があります。

17 ページの図をご覧になるとお分かりいただけるように、このタイプの投写方法では投写画像の下端がプロジェクタの水平面から縦に傾いてしまいます。天井に取り付けた場合は、投写画像の上端がこのようになります。

プロジェクタをスクリーンから遠ざけると、投写イメージのサイズが拡大され、それに伴い縦のオフセットも広がります。

スクリーンとプロジェクタの距離を決定する際は、投写距離に直接比例する投写イメージのサイズと縦オフセットのサイズも考慮する必要があります。

プロジェクタを設置するための適度な距離については、縦横比 4 : 3 のスクリーンサイズの表をご参照ください。設置場所を決定するときには、スクリーン中央に対し直角の水平距離 (投写距離) と、スクリーンの上下端からのプロジェクタの縦オフセットの高さ (オフセット) の 2 つのサイズを考慮してください。

使用するスクリーンサイズに対しプロジェクタの設置場所を決定します。

1. スクリーンサイズを選択します。
2. 表を参考にして、左側の "4:3 スクリーン対角 " という欄から使用したいスクリーンサイズに最も近いものを探してください。この値の列を右に見ていくと、" スクリーンからの推奨する投写距離 (mm)" という欄に相当するスクリーンからの平均距離が記載されています。これが投写距離になります。
3. 同じ列を右に見ていくと、縦オフセット値が記載されています。この値によって、スクリーンの端からの最終的な縦オフセット位置が決定されます。
4. プロジェクタはスクリーンの水平方向の中心に対して直角に、ステップ 2 で決定したスクリーンからの距離に、さらにステップ 3 で決定したオフセット値で設置するよう推奨します。

たとえば、120 インチのスクリーンを使用する場合は、推奨される投写距離は 4800 mm、縦オフセットは 183 mm となります。

プロジェクタを別の場所に移動させると (推奨される範囲内で)、スクリーンの中央に画像が表示されるようにプロジェクタを上下に傾ける必要があります。そうすると、画像に歪みが生じる場合があります。この場合は、キーストーン機能を使用して歪みを補正します。27 ページの " キーストーンの補正 " を参照してください。

設置する距離に対し推奨するスクリーンサイズを決定する

これは、プロジェクタを設置する部屋に合ったスクリーンサイズを求めるための方法です。

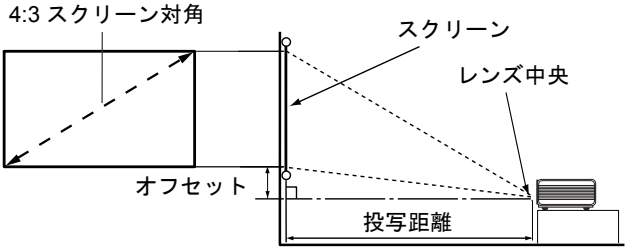
最大スクリーンサイズは、使用する部屋の実際のスペースが上限となります。

1. プロジェクタとスクリーンを設置したい場所までの距離を測ってください。これが投写距離になります。
2. 表を参考にして、" スクリーンからの推奨する投写距離 (mm)" という欄から測定した距離に最も近いものを探してください。
3. この値と同じ列を左へ見ていくと、相当するスクリーンサイズを見つけることができます。これが投写距離からの投写画像サイズになります。
4. 同じ列を右に見ていくと、縦オフセット値が記載されています。この値によって、プロジェクタの水平面を基にした最終的なスクリーン設置場所が決定されます。

たとえば、測定した投写距離が 4.5 m (4500 mm) の場合は " スクリーンからの推奨する投写距離 (mm)" の欄で最も近い値は 4320 mm となります。この列を見ていくと、9' (108") スクリーンが必要であることが分かります。メートル法によるスクリーンの場合は、スクリーンサイズは対角値が 2743 mm になります。

投写サイズ

適切な位置を計算する前に、52 ページの " 外形寸法 " を参照して、このプロジェクタのレンズサイズの中心を求めてください。



4:3 スクリーン対角			スクリーンからの推奨する投写距離 (mm)	縦オフセット (mm)
フィート	インチ	mm		
2.5	30	762	1200	46
3	36	914	1440	55
		1000	1575	60
4	48	1219	1920	73
		1500	2362	88
5	60	1524	2400	91
6	72	1829	2880	110
		2000	3149	120
7	84	2134	3360	128
8	96	2438	3840	146
		2500	3937	150
9	108	2743	4320	165
		3000	4724	180
10	120	3048	4800	183
		3500	5512	209
12	144	3658	5760	219
		4000	6299	239
15	180	4572	7200	274
		5000	7874	299
16.7	200	5080	8000	305

光学部品の偏差のため、これらの数字には 3% の公差があります。プロジェクタを一定場所に固定する予定であれば、設置を行う前に実際にプロジェクタを使って投写サイズと距離を測っておかれるようお薦めします。このように準備しておくことによって、プロジェクタを最適な位置に固定することができます。

4. 接続

信号ソースをプロジェクタに接続する際には、次の点を確認してください。

1. 接続を行う前にすべての機器の電源をオフにします。
2. 各ソースに正しい信号ケーブルを使用します。
3. ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認します。

☞ **下に示す接続図では、プロジェクタにケーブルは接続されていません (詳細は、8 ページの " パッケージ内容 " を参照してください) 。ケーブルはお近くの電気店でお求めください。**

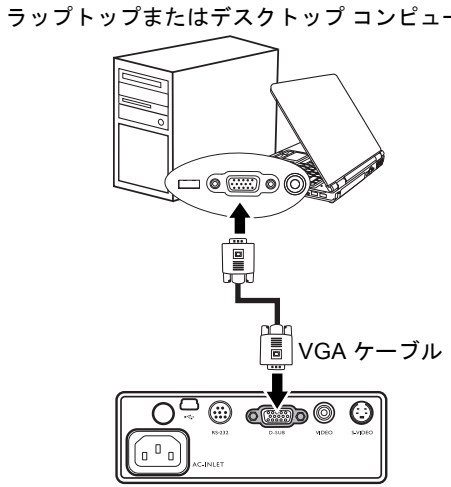
コンピュータの接続

このプロジェクタには PC と接続するための VGA 入力ソケットがついています。

プロジェクタと PC を接続するには :

1. 付属の VGA ケーブルをコンピュータの D-Sub 出力ソケットに接続します。
2. VGA ケーブルのもう片端をプロジェクタの D-SUB 信号入力ソケットに差し込んでください。

最終的には、下の図のような接続状態になります。



☞ **ラップトップコンピュータの多くは、プロジェクタに接続しても外付けビデオポートをオンにしません。通常は「FN」+「F3」や CRT/LCD の組み合わせによって、外付けディスプレイをオン / オフにすることができます。ラップトップ上で CRT/LCD と記された機能キーか、モニタの記号が表示された機能キーの位置を確認してください。「FN」とその機能キーを同時に押します。ラップトップのキーの組み合わせについては、ラップトップの説明書をお読みください。**

ビデオ機器との接続

本プロジェクタは次の出力ソケットのいずれかを備えたビデオ機器と接続することができます。

- コンポーネントビデオ
- S ビデオ
- ビデオ (コンポジット)

上記のいずれかの方法でプロジェクタとビデオソース装置を接続してください。ただし、方法によってビデオ品質が異なります。接続方法は、プロジェクタとビデオソース装置の両方に搭載されている端末に合ったものを選択してください。

最高のビデオ品質

最高の品質を実現する接続方法は、コンポーネントビデオです (コンポジットビデオと間違えないでください) 。デジタル TV チューナーや DVD プレーヤーはコンポーネントビデオを出力しますので、使用できるならばこの方法で接続してください。

プロジェクタとコンポーネントビデオ装置の接続方法については、20 ページの " コンポーネントビデオソース装置の接続 " を参照してください。

良好なビデオ品質

S ビデオは標準のコンポジットビデオよりも品質が良いアナログビデオを再現します。ビデオソース装置にコンポジットビデオと S ビデオの両出力端末が付いている場合は、S ビデオを選択してください。

標準ビデオ品質

コンポジットビデオはアナログビデオであり、見るだけなら十分です。ただしプロジェクタから投写される結果は最適値以下であり、ここで記載した方法の中では最も品質が低い方法です。

プロジェクタと S ビデオまたはコンポジットビデオ装置の接続方法については、21 ページの "S ビデオまたはコンポジットビデオ ソース装置の接続 " を参照してください。

コンポーネントビデオソース装置の接続

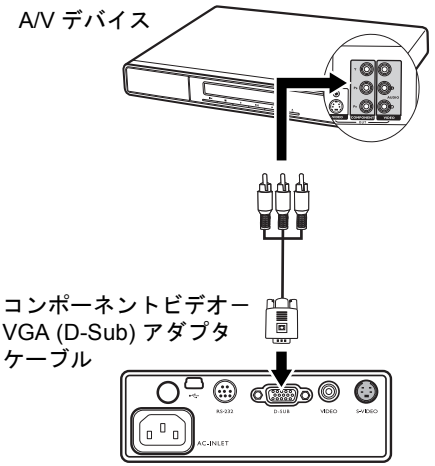
ビデオソース装置に未使用のコンポーネントビデオ出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

プロジェクタをコンポ-ネントビデオソース装置に接続するには

1. (オプションアクセサリの) コンポーネントビデオー VGA (D-Sub) アダプタケーブルの 3 個の RCA タイプコネクタが付いた方をビデオソース装置のコンポーネントビデオ出力ソケットに差し込んでください。プラグの色とソケットの色を合わせてください (緑は緑と、青は青と、赤は赤と) 。
2. コンポーネントビデオー VGA (D-Sub) アダプタケーブルのもう片端 (D-Sub タイプコネクタが付いた方) をプロジェクタの D-SUB ソケットに差し込みます。

最終的には、下の図のような接続状態になります。



プロジェクタをデジタル TV (DTV) チューナーに接続する場合は、次の解像度がサポートされています。

- 480i
- 576i
- 720p (50/60 Hz)
- 480p
- 576p
- 1080i (50/60 Hz)

• ネイティブ 16 : 9 ピクチャを表示できるビデオ出力は、コンポーネントビデオだけです。

• 電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されず、正しいビデオソースが選択されている場合、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。

S ビデオまたはコンポジットビデオ ソース装置の接続

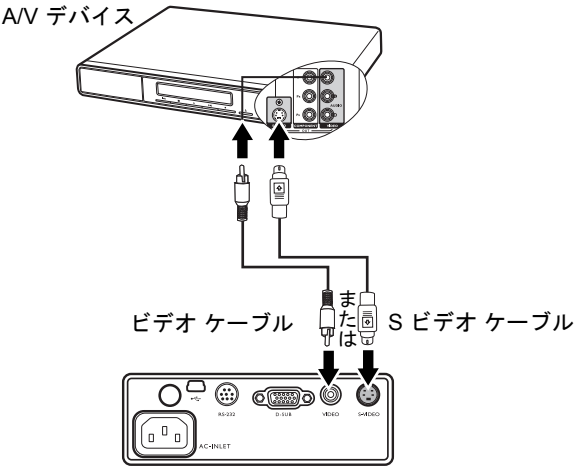
ビデオソース装置に未使用の S ビデオまたはコンポジットビデオ出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

プロジェクタを S ビデオ / ビデオソース装置に接続するには :

1. S ビデオケーブル / ビデオケーブル (オプションアクセサリ) をビデオソース装置の S ビデオ / ビデオ出力ソケットに差し込んでください。
2. S ビデオケーブル / ビデオケーブルのもう片端をプロジェクタの S ビデオ / ビデオ ソケットに差し込んでください。

最終的には、下の図のような接続状態になります。



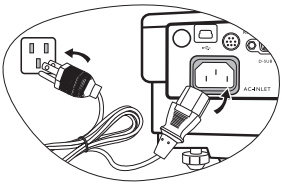
• プロジェクタとビデオソース装置をコンポーネントビデオにより接続してある場合は、S ビデオまたはビデオ接続により再びこの装置を接続すると不要に第 2 の接続を行うことになり、画質が劣化するため、これを行う必要はありません。
ビデオソース装置にコンポーネントビデオと S ビデオのどちらも提供されていない場合は (例 : 一部のアナログ ビデオカメラなど)、コンポジットビデオ接続を行うだけでかまいません。詳細は、19 ページの " ビデオ機器との接続 " を参照してください。

• 電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されず、正しいビデオソースが選択されている場合、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。

5. 操作

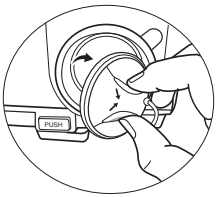
起動

1. 電源コードをプロジェクタとコンセントに差し込みます。コンセントのスイッチをオンにします (該当する場合) 。電源を入れると、**POWER (電源) インジケータ** がオレンジ色になります。

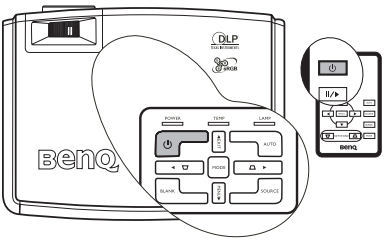


☞ **国によっては、電源ケーブルの種類が図に示す電源ケーブルとは異なる場合があります。**

2. レンズ キャップを取り外します。キャップを付けたままにしておくと、プロジェクタのランプから発生する熱によりキャップが変形してしまいます。



3. プロジェクタまたはリモコンの **電源**ボタンを 2 秒間押し続けてプロジェクタを起動します。**POWER (電源) インジケータ ライト**が緑色に点滅し、電源がオンになると、緑色のまま点灯します。
起動処理には約 30 秒かかります。
起動処理の後半で、スタートアップ ロゴが表示されます。

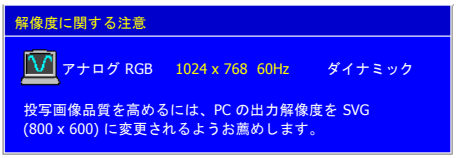


必要であれば、ピントリングを使って画像の鮮明さを調整してください。

☞ **プロジェクタが前回の動作を終えた後まだ余熱を帯びている場合は、ランプをスタートアップする前に約 110 秒間冷却ファンが作動します。**

4. パスワードの入力を求められた場合は、矢印ボタンを使って 4 桁のパスワードを入力してください。23 ページの " パスワード機能の使い方 " を参照してください。
5. 接続されているすべての機器の電源をオンにします。
プロジェクタは入力信号の検索を開始します。スキャンされている入力ソースがスクリーン中央に表示されます。プロジェクタが有効な信号を検出しない場合は、入力ソース信号が検出されるまで検出中のメッセージが表示され続けます。
プロジェクタまたはリモコンの **SOURCE (ソース)** を押すと、表示する入力信号を選択することができます。詳細は 26 ページの " 入力信号の切り替え " を参照してください。

PC 入力が選択されており、解像度が 800 x 600 ではない場合は、下図のような 解像度に関する注意 が表示されます。画像品質を高めるには、要求されたときに PC の解像度を 800 x 600 に変更してください。



入力信号の周波数 / 解像度がプロジェクタの動作範囲を超えた場合、「対応範囲外」というメッセージがスクリーンに表示されます。入力信号をプロジェクタの解像度と互換性があるものに変更するか、入力信号の設定を低くしてください。**53 ページの " タイミングチャート " を参照してください。**

パスワード機能の使い方

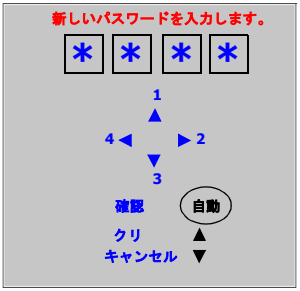
セキュリティのため、および許可されていないユーザーがプロジェクタを勝手に使用できないように、このプロジェクタにはパスワードを設定することができます。パスワードはオンスクリーンメニューで設定します。オンスクリーンメニューの操作方法については、37 ページの "OSD メニューの使用方法 " を参照してください。

パスワード機能を有効にしたにも関わらず、パスワードを忘れてしまうと面倒なことになります。(必要であれば) 本書を印刷し、設定したパスワードを本書に書き留めておき、安全な場所に保管しておいてください。

パスワードの設定

一度パスワードを設定して有効にすると、プロジェクタを起動するたびに正しいパスワードを入力しなければプロジェクタを使用することはできなくなります。

1. プロジェクタの ▼MENU (メニュー) を押すか、リモコンの MENU (メニュー) を押して OSD メニューを開き、 **設定 > パスワード**メニューを開いてください。◀ **左** / **右** ▶ を押して **オン**を選択します。
2. 初めてこの機能を有効にすると、スクリーン上に警告が表示されます。
3. 右図に示す通り、4 つの矢印ボタン (**▲ 上、▶ 右、▼ 下、◀ 左**) はそれぞれ 4 つの数字 (1, 2, 3, 4) を示しています。矢印ボタンを押して 4 桁のパスワードを入力してください。
4. パスワードを完全に入力したら、AUTO (**自動**) を押して確認してください。



入力した数字は画面上にはアスタリスク (*) で表示されます。本書の下の欄に設定したパスワードを書き留めておいてください。

パスワード : _ _ _ _
本書は安全な場所に保管しておいてください。

5. 確認のために、同じパスワードをもう一度入力してください。
6. 次のいずれかのステップにしたがってください。

i. AUTO (**自動**) を押して続行します。「パスワードの変更が完了しました」というメッセージが表示されたらセットアップが完了したことになります。

ii. 入力したパスワードをクリアして再度入力するには、▲ **上**を押します。

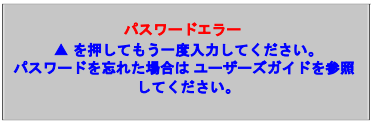
iii. パスワードの設定を中止し、OSD に戻るには、▼ **下**を押します。

パスワード機能を無効にするには、オンスクリーン ディスプレイメニューで  **設定** > **パスワード**を選択します。◀ **左** / ▶ **右**を押して**オフ**を選択します。

☞ **パスワード機能を無効にしても、再びパスワード機能を有効にしたり、パスワードを変更したりするときに古いパスワードを入力するよう要求されますので、古いパスワードは忘れないように記録し保管しておいてください。**

パスワードを忘れた場合

パスワード機能が有効になっているときには、プロジェクタを起動すると毎回 4 桁のパスワードを入力するよう要求されます。パスワードを間違えると、エラーメッセージが表示されます。▲ **上**を押してもう一度やり直してください。パスワードを忘れてしまい、またパスワードを記録しておかなかった場合は、パスワードの呼び戻し手続きを行ってください。



パスワードの呼び戻しを行うには

プロジェクタの ▶ **右**を 3 秒間押します。スクリーン上に 4 組のコード化された番号が表示されます。番号を書き留めて、プロジェクタをオフにしてください。番号をデコードするには、お近くの BenQ サービスセンターにお問い合わせください。お客様がこのプロジェクタを使用できる正当なユーザーであることを確認するために、購入を証明する文書の提示を求められる場合があります。

パスワードの変更

1. プロジェクタの ▼ MENU (**メニュー**) を押すか、リモコンの MENU (**メニュー**) を押して OSD メニューを開き、 **設定** > **パスワードの変更**メニューを開いてください。
2. ◀ **左**または ▶ **右**を押します。
3. 古いパスワードを入力してください。
   i. パスワードが正しければ、新しいパスワードを入力することができます。
   ii. 入力したパスワードが正しくなければ、「パスワードエラー」メッセージが表示されます。もう一度入力するには ▲ **上**を押します。キャンセルするには ▼ **下**を押します。
4. 新しいパスワードを入力します。

   ☞ **入力した数字は画面上にはアスタリスク (*) で表示されます。本書の下の欄に設定したパスワードを書き留めておいてください。**

   パスワード : __ __ __ __
   本書は安全な場所に保管しておいてください。

5. 次のいずれかのステップにしたがってください。
   i. AUTO (**自動**) を押して確認します。
   ii. もう一度入力し直すには、▲ **上**を押してください。

iii. パスワードの設定を中止し、オンスクリーンメニューに戻るには、▼下を押します。

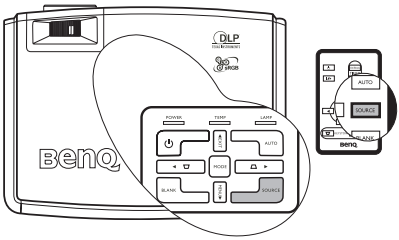
6. 新しいパスワードを再度入力して新しいパスワードを確認してください。
7. 次のいずれかのステップにしたがってください。
   i. AUTO (自動) を押すと設定が完了します。
   ii. もう一度入力し直すには、▲上を押してください。
   iii. パスワードの設定を中止し、オンスクリーンメニューに戻るには、▼下を押します。

入力信号の切り替え

プロジェクタは同時に複数の装置に接続することができます。ただし一度に表示できる装置は 1 台しかありません。

有効な入力信号を切り替えるには：

1. プロジェクタかリモコンの **SOURCE (ソース)** を押すとソース選択バーが表示されます。信号がすでに選択されている場合は、**SOURCE (ソース)** を 2 回押してください。1 回目に押したときには現在のソース情報が表示され、2 回目に押したときにはソース選択バーが表示されます。





2. 希望する信号が選択されるまで手動で **SOURCE (ソース)** を押すか、プロジェクタに有効な信号を自動検出させることができます。
   信号が検出されたら、選択したソース情報が画面の右下隅に 3 秒間表示されます。プロジェクタに複数の装置が接続されている場合は、再びこのボタンを押して別の信号を検出することができます。

プロジェクタに信号を自動検出させるには、 **詳細**メニューで **ソーススキャン** 機能が有効になっていることを確認してください。詳細は、41 ページの " ソース スキャン " を参照してください。

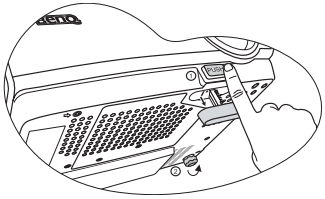
ランプ寿命を不要に消耗しないために、自動電源オフ機能を有効にして一定時間信号が検出されない場合は自動的にプロジェクタをオフにするようにしてください。自動電源オフ 時間を設定するには、 **詳細** > **自動電源オフ** メニューを選択し、**◀ 左** / **▶ 右**を押してください。時間は 5 分おきに 5 分から 20 分までの範囲で設定することができます。

入力信号を変えると、そのたびに投射画像の輝度も変わります。通常ほとんどが静止画を使ったデータ (グラフィック) PC プレゼンテーションは、ほとんどが動画 (ムービー) のビデオよりも明るくなります。

入力タイプによって、アプリケーションモードで有効なオプションが変わります。詳細は、30 ページの " 画像モードの選択 " を参照してください。

投写イメージの調整

投写角度の調整



プロジェクタには、クイック リリース アジャスタ フットが 1 つ、背面アジャスタ フットが 1 つ備え付けられています。これらのアジャスタを使って、イメージの高さと投写角度を調整します。プロジェクタを調整するには、次の手順にしたがってください。

1. プロジェクタを持ち上げ、アジャスタボタンを押してアジャスタを解放します。アジャスタが所定の位置に下りて固定されます。

⚠ ランプが点灯しているときには絶対にレンズを覗かないでください。ランプからは強い光が発されており、目を傷つける場合があります。

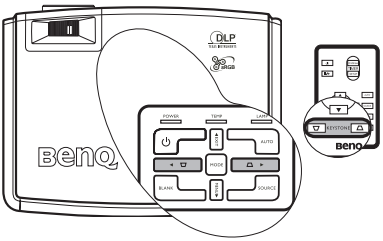
2. 背面アジャスタ フットを回して、水平角度を微調整します。

フットを縮めるには、クイックリリース ボタンを押しながらプロジェクタを持ち上げて、ゆっくりとプロジェクタを下ろします。背面アジャスタフットを逆方向に回します。

スクリーンとプロジェクタが垂直になっていなければ、投影画像は縦に歪みます。これを補正するには、プロジェクタのコントロール パネルまたはリモコンの画像メニューでキーストーンの値を調整します。27 ページの " キーストーンの補正 " を参照してください。

キーストーンの補正

キーストーンとは、投写イメージの上部または下部が大きく広がってしまう状態のことです。プロジェクタがスクリーンに対して垂直でない場合に発生します。



これを補正するには、プロジェクタの高さの調整とは別に、次のいずれかの手順に従い、手動で補正する必要があります。

- リモコンの ▽ / △ を押して、［キーストーン］というラベルの付いたステータスバーを表示してから、イメージの上部のキーストーンを補正する場合は、▽ を押し、イメージの下部のキーストーンを補正する場合は、△ を押します。
- プロジェクタの ▼ MENU (**メニュー**) またはリモコンの MENU (**メニュー**) キーを押します。 **高画質画像** > **キーストーン** メニューを開き、思い通りの形状になるまでプロジェクタかリモコンの **◀ 左** / **▶ 右** を押します。

以下に例を示します。



- プロジェクタかリモコンの ▽ を押します。
- 高画質画像 > キーストーンメニューを開いているときには、プロジェクタかリモコンの◄左を押します。



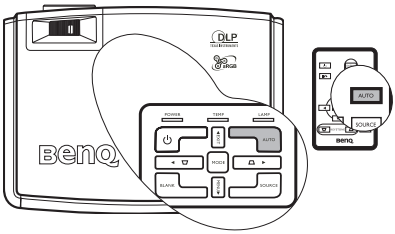


- プロジェクタかリモコンの △ を押します。
- 高画質画像 > キーストーンメニューを開いているときには、プロジェクタかリモコンの►右を押します。



イメージの自動調整

場合によっては、画質を最適化する必要が生じることもあります。これを実行するには、プロジェクタかリモコンの AUTO (自動) を押します。組み込みのインテリジェント自動調整機能により周波数およびクロックの値が再調整され、3 秒以内に最適な画質が得られます。



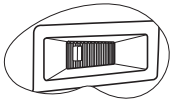
下図のように、現在のソース情報がスクリーンの右下隅に 3 秒間表示されます。

AUTO (自動) が機能している間、スクリーンは消画の状態になります。

画像の明瞭さの微調整

必要であれば、ピントリングを回して焦点を合わせます。





縦横比の選択

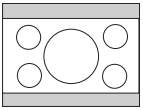
「縦横比」とは、イメージの幅と高さの比率のことです。ほとんどのアナログ TV とコンピュータの画面の縦横比率は 4:3 です。デジタル TV や DVD の場合は 16:9 です。

デジタル信号処理能力が進化するにつれ、このプロジェクタのようなデジタルディスプレイ装置はイメージ出力をイメージ入力ソースとは異なるアスペクトにまで拡張できるようになりました。

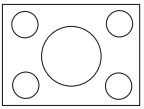
投写画像の比率は、 **高画質画像** > **縦横比** を選択すると変更できます（ソースの縦横比がどちらであっても）。ビデオ信号のフォーマットとディスプレイの条件に合わせて適切な縦横比を選択してください。3 種類の縦横比があります。

☞ **下の図では黒い部分が無効になったエリアで、白い部分が有効なエリアです。**

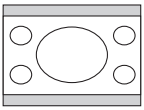
1. **ネイティブ**：画像はピクセルの変換を行わず、元の解像度のまま投写されます。低解像度の入力信号では、投写画像はフルスクリーンサイズに変更した場合よりも小さいサイズで表示されます。プロジェクタをスクリーンに近づけると、画像サイズが大きくなります。プロジェクタを動かすと、プロジェクタのフォーカスを調整し直す必要があるかもしれません。



2. **4:3**: スクリーンの中央が 4:3 の縦横比になるようにイメージを調整します。これは縦横比を変更せずにすむため、コンピュータモニタ、標準精度の TV、縦横比 4:3 の DVD ムービーなどの 4:3 画像に適しています。



3. **16:9**: スクリーンの中央が 16:9 の縦横比になるようにイメージを調整します。この設定は、縦横比を変更する必要がないため高精度 TV など、すでに縦横比が 16:9 になっている画像に適しています。

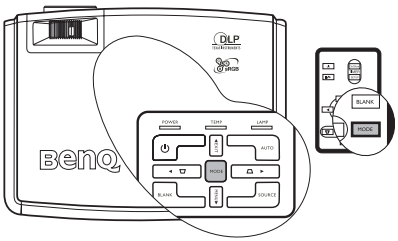


☞ **縦横比 16：9 は、正しい 16：9 信号が入力されているときに、コンポーネントビデオ入力を介してしか表示することができません。詳細は、20 ページの " コンポーネントビデオソース装置の接続 " と 15 ページの " スクリーンサイズの調整 " を参照してください。**

画像の最適化

画像モードの選択

このプロジェクタは操作環境や入力ソースの画像タイプによって自由に選択できるように、いくつかのアプリケーションモードが設定されています。



用途に合った操作モードを選択するには、次のいずれかのステップに従ってください。

- 任意のモードが選択されるまで、リモコンかプロジェクタの **MODE (モード)** を押します。
- **画像** > **ピクチャ モード** メニューを開き、**◀ 左 / ▶ 右** を押して任意のモードを選択します。

信号タイプごとに使用できる画像モードは次の通りです。

PC 信号入力

1. **ダイナミック モード (デフォルト)**：イメージの輝度を最大限明るくします。このモードは、輝度を最高に明るくする必要がある環境に適しています (プロジェクタを明るい部屋で使用する場合など)。
2. **プレゼンテーション モード**: プレゼンテーションに向いています。このモードでは PC の色に合わせて輝度が強調されます。
3. **sRGB モード**：RGB の純度を最高に上げて、輝度設定に関係なく実物のようなリアルな画像を再現します。このモードは sRGB 対応の正しく調整されたカメラで撮影したフォトを見たり、PC グラフィックや AutoCAD などの描画アプリケーションを見るのに適しています。
4. **シネマ モード**: このモードはやや暗めの場所で、PC 入力を介してデジタルカメラや DV からカラフルなムービーやビデオクリップを再生するのに適しています。

YPbPr/S ビデオ / ビデオ信号入力

1. **標準 モード (デフォルト)**：デジタルカメラや DV からカラフルなムービーやビデオクリップを表示する場合に適しています。
2. **ダイナミック モード**：このモードは普通のリビングルームの照明でゲームボックスベースのビデオゲームを楽しむのに適しています。
3. **シネマ モード**：このモードは暗くしたホームシネマルームやラウンジなどで、色が暗いムービーや DVD ムービーを楽しむのに適しています。

壁の色の使い方

スクリーンや投写面が白以外の色である場合、壁の色機能を使うと投写画像の色を調整してソース画像と投写画像の違いを最小限に留めることができます。

この機能を使うには、**画像** > **壁の色** メニューを開き、**◀ 左 / ▶ 右** を押して投写面に最も近い色を選択してください。選択肢には次のような色があります。軽い黄色い , ピンク , 薄緑 , 青 , および 黒板画質の微調整。

画質の微調整

次の調整機能は、 **画像**メニューから選択できます。**▲上** / **▼下**を押して調整するアイテムを選択し、必要であれば **◀左** / **▶右**を押して調整を行ってください。

調整輝度

値を高くするほどイメージの輝度が増加します。設定値が小さいほどイメージは暗くなります。このコントロールを調整すると、イメージの黒い領域が黒く表示されるため、暗い領域の詳細が見えるようになります。



調整コントラスト

値を高くするほどコントラストが増加します。このプロジェクタには購入された国に合った電源ケーブルが提供されていますので、それ以外の電源ケーブルはご使用にならないでください。画像の白いエリアの詳細を維持したまま白いエリアが明るくなるように、調整を行ってください。選択した入力と表示環境に合わせて明度設定をすでに調整した後で、これをお使いください。。



選択色温度

4 種類の色温度 * 設定が使用できます。

1. **T1:** 最高の色温度のとき、T1 は他の設定よりも画像をより青白く再現します。
2. **T2:** 画像を青みがかった白で表示します。
3. **T3:** 白の色合いを通常に保ちます。
4. **T4:** 画像を赤みがかった白で表示します。

*** 色温度について：**

用途に応じて「白」とみなされる色合いが多数存在します。白色を表すためによく使用される方法の 1 つに「色温度」があります。色温度の低い白色は赤みがかった白で表示されます。色温度の高い白色は青みがかって表示されます。

その他の調整

 **画像** メニューからも他の画質調整機能を選択できます。38 ページの " 画像メニュー " を参照してください。

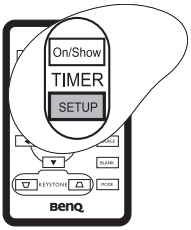
プレゼンテーションタイマーの設定

プレゼンテーションタイマーは、発表者が上手く時間を管理できるように、スクリーン上にプレゼンテーションの残り時間を表示する機能です。この機能を使用するには、次の手順に従ってください。

1. リモコンの TIMER SETUP (**タイマー設定**) を押すか、



詳細 > **プレゼンテーションタイマー** メニューを開いて **◀左 / ▶右**を押して、プレゼンテーションタイマー ページを開いてください。





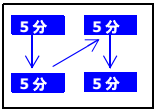
2. **▼下**を押して タイマー間隔を選択し、**◀左 / ▶右**を押してタイマー時間を設定します。タイマーは 5 分間隔で 5 分から 240 分までの範囲で設定できます。

タイマーがすでにオンになっているときには、タイマー間隔がリセットされるとタイマーは最初からカウントし直します。

3. **▼下**を押してタイマーの表示を選択し、**◀左 / 右▶** を押してタイマーをスクリーンに表示するかどうかを決定します。

選択肢	説明
常に使用する	プレゼンテーション中にスクリーンにタイマーを表示し続けます。
1 分 /2 分 /3 分	タイマーをプレゼンテーションが終わる 1/2/3 分前に表示します。
常に使用しない	プレゼンテーション中にタイマーを表示しません。

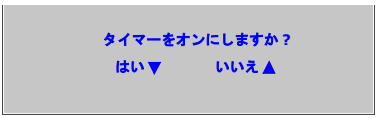
4. **▼下**を押してタイマーの位置を選択し、**◀左 / ▶右**を押してタイマーの位置を設定します。
左上 → 左下 → 右上 → 右下



5. **▼下**を押して タイマーのカウント方法を選択し、**◀左 / ▶右**を押してタイマーのカウント方式を選択してください。

選択肢	説明
増加	0 から開始して、設定した時間までカウントします。
減少	設定した時間から開始して、0 までカウントします。

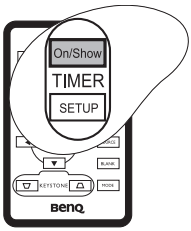
6. **▲上**を押して タイマー起動を選択し、**◀左 / ▶右**を押します。確認のメッセージが表示されます。



7. ▼下を押して確認します。するとスクリーンに「タイマーはオンです !」というメッセージが表示されます。タイマーをオンにすると、カウントを開始します。

タイマーをキャンセルするには、1、6、7 のステップを繰り返してください。するとスクリーンに「タイマーはオフです !」というメッセージが表示されます。

TIMER On/Show (タイマーオン / 表示) ボタンの使い方

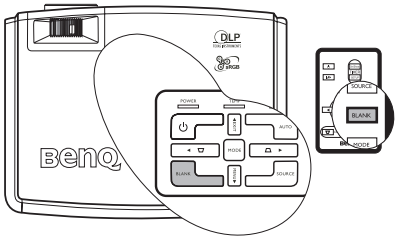


このボタンは複数の機能を持つキーです。

- プレゼンテーションタイマーがオフになったときには、このボタンを押すと確認メッセージが表示されます。画面の指示に従って、タイマーを有効にするかどうかを決定することができます。
- タイマーがすでにオンになっており、非表示になっている場合は、このボタンを押すと数秒後にタイマーがスクリーン上に表示されます。
- タイマーがすでにオンになっていてスクリーン上に表示されている場合は、このボタンを押しても何も起こりません。

画像を隠す

BLANK (**ブランク**) を使用するとスクリーンのイメージが消えるため、聴衆の関心をすべて講演者に向けることができます。プロジェクタかリモコンのキーをどれでも押すと、イメージが戻ります。イメージが非表示になると、スクリーンの右下隅に、「BLANK (**ブランク**)」と表示されます。

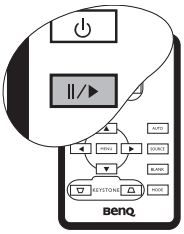


 **設定 > ブランク時間** メニューでブランク時間を設定すると、一定時間消画スクリーン状態で何もしなかった場合に、自動的に画像が戻るように設定できます。タイマーは 1 分間隔で 0 分から 60 分までの範囲で設定できます。0 分に設定するとこの機能は無効になります。

BLANK (ブランク) を押すと、プロジェクタが自動的に省電力モードに入ります。

投写中に投写レンズを他の物体で覆わないでください。その物体が過熱し、火災の原因となり危険です。

画像の静止



リモコンの II/▶ を押すと画像が静止します。スクリーンの右下隅に ▮▮ アイコンが表示されます。この機能を無効にするには、リモコンの II/▶ を押すか、プロジェクタの SOURCE（**ソース**）を押してください。SOURCE（**ソース**）を押すと、入力ソースも変わりますのでご注意ください。

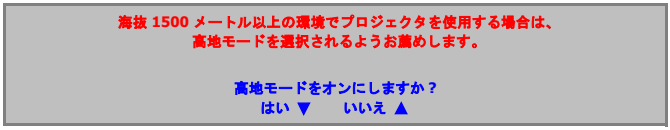
スクリーン上でイメージが静止しても、ビデオやその他の装置で映像は流れ続けています。

高地での操作

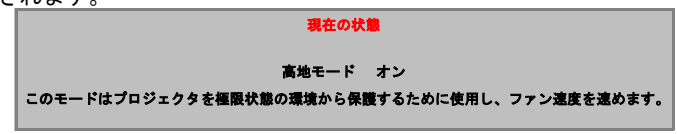
海抜 1500m から 3000m 以上の場所、および温度が 0ºC から 35ºC の場所でプロジェクタを操作する場合は、高地モードをお使いになるようお薦めします。

⚠ **海抜が 0m から 1500m の範囲で、温度が 0°C から 35°C の範囲の環境では 高地モードはお使いにならないでください。このような環境でこのモードをお使いになると、プロジェクタが過剰に冷却されてしまいます。**

高地モードを有効にするには、 **詳細** > **高地モード** メニューを開き、プロジェクタかリモコンで **◀左** / **▶右** を押して **オン**を選択してください。すると確認のメッセージが表示されます。**▼下**を押してください。



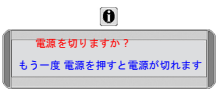
次回プロジェクタの電源を入れると、スタートアップ中に下のようなメッセージが表示されます。



高地モードを選択した場合は、システムの性能を維持するために冷却ファンが回転速度を速めるために操作ノイズが高くなる場合があります。

上記の場合を除き、その他の極限環境でプロジェクタを使用すると、プロジェクタが自動的にシャットダウンする場合があります。これはプロジェクタを過熱から保護するために設置された機能です。このような場合は、高地モードに切り替えてみてください。これは、このプロジェクタが極限状態でも操作可能であるということを保証するものではありません。

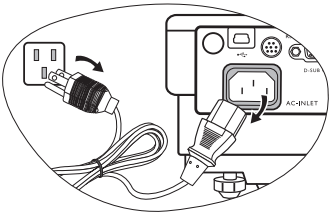
プロジェクタの終了



1. **電源**を押すと、警告メッセージが表示されます。もう一度 **電源**を押すと、プロジェクタの電源がオフになります。
2. **Power（電源）インジケータライト**がオレンジ色に点滅してランプが消灯した後、プロジェクタを冷却するためにファンが約 110 秒間動作を続けます。

ランプを保護するため、冷却プロセスの間はプロジェクタはいかなるコマンドにも反応しません。

3. 長期間プロジェクタを使用しない予定であれば、電源コードをコンセントから抜いておいてください。



- **プロジェクタ終了手順が完了する前、または 110 秒間の冷却プロセスの間は、電源コードを抜かないでください。**
- **プロジェクタを正しく終了しなければ、プロジェクタを再起動しようとするとランプを保護するため、数分間ファンが動作して冷却します。ファンが停止し、電源インジケータがオレンジ色に変わったら、再び 電源を押してプロジェクタを起動してください。**

メニューの操作

メニュー システム

OSD メニューは、選択した信号のタイプにより異なります。

	受信信号のタイプにより使用可能な機能		
サブメニュー	**PC**	**ビデオ / S ビデオ**	**コンポーネントビデオ**
 **画像**	• ピクチャ モード • 壁の色 • 色温度 • 輝度 • コントラスト	• ピクチャ モード • 壁の色 • 色温度 • 輝度 • コントラスト • 色 • 色合い * • シャープネス	
 **高画質画像**	• 自動サイズ調整 • 縦横比 • キーストーン • 水平位置 • 垂直位置 • 位相 • 水平サイズ	• 自動サイズ調整 • 縦横比 • キーストーン	
 **設定**	• OSD 時間 • ブランク時間 • パスワード • パスワードの変更 • リセット		
 **詳細**	• ミラー • ソース スキャン • 言語 • スプラッシュスクリーン • 高地モード • 自動電源オフ • 省電力モード • プレゼンテーションタイマー		
 **情報**	• ソース • 解像度 • ピクチャ モード • ランプ時間 (補正済み)	• ソース • システム • ピクチャ モード • ランプ時間 (補正済み)	• ソース • 解像度 • ピクチャ モード • ランプ時間 (補正済み)

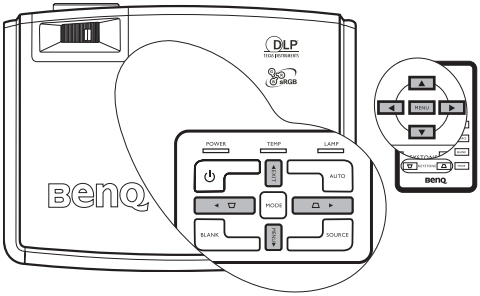
* ビデオまたは S ビデオ信号が接続されているときには、この機能は NTSC システムが選択されているときにしか使用することができません。

OSD メニューの使用方法

プロジェクタは、On-Screen Display (OSD) メニューを備えており、各種の調整や設定が行えます。

メニュー言語は 17ヶ国語用意されています。(詳細については、41 ページの " 言語 " を参照してください)。

次の例では、**キーストーン** の調整を説明しています。



1. プロジェクタの ▼ **MENU (メニュー)** か、リモコンの **MENU (メニュー)** を押して、OSD メニューをオンにします。



2. プロジェクタかリモコンの **◀ 左 / ▶ 右** を押して、 **高画質画像** メニューを選択します。

3. プロジェクタかリモコンの **▲ 上 / ▼ 下** を押して、**キーストーン** を選択します。



4. プロジェクタかリモコンの **◀ 左 / ▶ 右** を押してキーストーン値を調整します。



5. プロジェクタの **▲ EXIT (終了)** を繰り返し押すか、リモコンの **MENU (メニュー)** を押して設定を終了して保存してください。

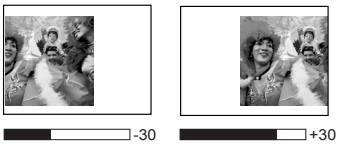
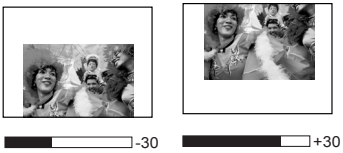
画像メニュー

☞ **項目によっては、特定の入力ソースを使用している場合にしか調整できないものもあります。調整できない項目はスクリーンには表示されません。**

機能 (デフォルト設定 / 値)	説明
ピクチャ モード **(PC：ダイナミック ;YPbPr / S ビデオ / ビデオ：標準)**	あらかじめ定義したモードを利用すると、ご使用のプログラムタイプに最適なプロジェクタのイメージを設定することができます。 ☞ **リモコンの モードボタンを使ってあらかじめ定義したモードを選択することもできます。詳細は、30 ページの " 画像モードの選択 " を参照してください。**
壁の色 **(オフ)**	白以外の面に投写する場合は、投写画像の色を調整してください。
色温度 **(選択したピクチャ モードによります)**	4 種類の色温度設定が使用できます。 31 ページの " 選択色温度 " を参照してください。
輝度 **(選択した入力ソースによって変わります)**	イメージの輝度を調整します。 31 ページの " 調整輝度 " を参照してください。
コントラスト **(選択した入力ソースによって変わります)**	イメージの明るさと暗さの差を調整します。 31 ページの " 調整コントラスト " を参照してください。
色 **(選択した入力ソースによって変わります)**	イメージの色強度を増減します。
色合い **(50)**	イメージの色調を調整します。値を高くするほど赤みがかったイメージになります。値を低くするほど緑がかったイメージになります。 ☞ **ビデオまたは S ビデオ信号が接続されているときには、この機能 NTSC システムが選択されているときにしか使用することができません。**
シャープネス **(15)**	イメージがシャープまたはソフトになるように調整します。

高画質画像メニュー

☞ **項目によっては、特定の入力ソースを使用している場合にしか調整できないものもあります。調整できない項目はスクリーンには表示されません。**

機能 (デフォルト設定 / 値)	説明
自動サイズ調整 **(オン)**	入力信号のピクセル解像度をプロジェクタの最高解像度に自動的にリサイズします。 **オン**：入力信号のピクセル解像度がプロジェクタの最高解像度 (800 x 600) に変換されます。低解像度の入力信号では、投写する前にピクセル間のギャップが自動的に補間されます。これにより画像の鮮明さが失われる場合があります。 **オフ**：画像はピクセルの変換を行わず、元の解像度のまま投写されます。低解像度の入力信号では、投写画像はフルスクリーンサイズに変更した場合よりも小さいサイズで表示されます。プロジェクタをスクリーンに近づけると画像サイズが大きくなります。プロジェクタを動かすと、プロジェクタのフォーカスを調整し直す必要があるかもしれません。
縦横比 **(ネイティブ)**	入力信号ソースによって、画像の縦横比を設定するオプションは 3 つあります。 詳細は、28 ページの " 縦横比の選択 " を参照してください。
Keystone **(キーストーン)** **(0)**	イメージのキーストーンを補正します。27 ページの " キーストーンの補正 " を参照してください。
水平位置 **(0)**	投写画像の水平位置を調整します。 
垂直位置 **(0)**	投写画像の垂直位置を調整します。 
位相 **(選択した入力ソースによって変わります)**	ビデオ入力クロックがビデオ信号に同期するように調整してください。このようにすることにより、PC ビデオタイミングによって画像が歪む問題を軽減することができます。 
水平サイズ **(0)**	イメージの幅を調整します。

設定メニュー

機能 (デフォルト設定 / 値)	説明
OSD 時間 **(20)**	ボタンを押してからの OSD の表示時間を設定します。5 ～ 100 秒の範囲で設定できます。
ブランク時間 **(20)**	ブランク機能が有効になっているとき、画像をブランクにしておく時間を選択します。ここで設定した時間が経過すると、画像は元に戻ります。
パスワード **(オフ)**	これは選択可能な機能です。**オン**を選択すると、パスワードを知っているユーザーのみプロジェクタを操作できるようにします。初めてこの機能を有効にするときに、パスワードを設定する必要があります。詳細は、23 ページの " パスワード機能の使い方 " を参照してください。パスワードを設定し、この機能を選択すると、プロジェクタはパスワードで保護された状態になります。正しいパスワードを知らないユーザーはプロジェクタを操作することができません。 ⚠ **パスワード機能を有効にしたにも関わらず、パスワードを忘れてしまうと面倒なことになります。** **(必要であれば) 本書を印刷し、設定したパスワードを本書に書き留めておき、安全な場所に保管しておいてください。** パスワード入力はプロジェクタやリモコンのボタンを使って行ってください。 ☞ **入力した数字は画面上にはアスタリスク (*) で表示されます。**
パスワードの変更	新しいパスワードに変更する前に、現在のパスワードを入力するよう要求されます。詳細は、23 ページの " パスワード機能の使い方 " を参照してください。
リセット **(いいえ)**	すべての設定を工場出荷時の値に戻します。 ☞ **次の設定は現在の設定値のまま維持されます。ミラー , 言語 , パスワード , 高地モード , 位相 , 水平位置 , 垂直位置 , および 水平サイズ**

詳細 メニュー

機能 (デフォルト設定 / 値)	説明 (デフォルト設定 / 値)
ミラー ( )	プロジェクタは、天井またはスクリーンの背後に設置したり、1 枚あるいは複数のミラーを使用して設置することができます。プロジェクタを天井に設置する場合は、販売店に連絡して、天井取り付け用ブラケット (別売りアクセサリ) をお求めください。14 ページの " 場所の選択 " を参照してください。
ソース スキャン (オン)	プロジェクタで自動的に入力信号を検索するかどうかを設定します。ソーススキャンが**オン**の場合、プロジェクタは信号を取得するまで入力信号をスキャンします。この機能が有効になっていない場合は、最後に使用した入力信号が選択されます。デフォルト値は 'RGB' です。
言語 (英語)	OSD メニューの言語を設定します。 次の 17 ヶ国語が用意されています。英語 (デフォルト)、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、中国語 (繁体字)、中国語 (簡体字)、日本語、韓国語、スウェーデン語、オランダ語、トルコ語、チェコ語、ポルトガル語、タイ語、ポーランド語
スプラッシュスクリーン (BenQ ロゴ)	プロジェクタ起動時に表示されるロゴ画面を、ユーザーが選択することができます。選択肢には以下の 3 つがあります。BenQ ロゴ、黒画面、青画面
高地モード (オフ)	高地や温度が高い場所で使用するときのモードです。 34 ページの " 高地での操作 " を参照してください。
自動電源オフ (オフ)	指定した時間を経過しても入力信号が検出されないときに、自動的にプロジェクタの電源をオフにします。 26 ページの " 入力信号の切り替え " を参照してください。
省電力モード (オフ)	システムのノイズを減らすためにはこのモードを使用します。消費電力が 20% 節減されます。このモードを有効にすると出力されるライトが低減され、その結果投射画像が暗くなります。 ☞ **プロジェクタを常に省電力モードで使用すると、ランプタイマーの自動シャットダウン機能が延長されます。ランプの使用時間を計算する方法については、45 ページの " ランプの使用時間の計算 " を参照してください。**

プレゼンテーションタイマー	プレゼンテーションを一定時間内で終わらせられるように、発表者に残り時間を知らせます。32 ページの " プレゼンテーションタイマーの設定 " を参照してください。 **タイマー起動 (オフ) :** プレゼンテーションタイマーのオン / オフを切り替えます。 **タイマー間隔 (60 分) :** プレゼンテーションの長さを設定します。 **タイマーの表示 (常に使用する) :** スクリーンにタイマーを表示するかどうかを指定します。 **タイマーの位置 (**  **) :** スクリーンのどこにタイマーを表示するかを設定します。 **タイマーのカウント方法 (増加) :** タイマーのカウント方法を設定します。

情報メニュー

このメニューでは、プロジェクタの現在の操作状態を表示します。

項目によっては、特定の入力ソースを使用している場合にしか調整できないものもあります。調整できない項目はスクリーンには表示されません。

機能	説明
ソース	現在の信号ソースを表示します。
解像度	入力信号の解像度を表示します。
システム	ビデオ入力システムの形式が NTSC 、SECAM 、PAL のいずれかを表示します。
ピクチャモード	 **画像** メニューで選択したモードを表示します。
ランプ時間 (補正済み)	内蔵タイマーがカウントするランプ時間を表示します。

6. メンテナンス

プロジェクタのお手入れ

ご使用のプロジェクタはほとんどメンテナンスの必要がありません。レンズを清潔に保つために、定期的なレンズのお手入れだけが必要です。

ランプ以外はプロジェクタの部品は一切取り外さないでください。ランプ以外の交換が必要な場合は、販売店にご相談ください。

レンズのクリーニング

表面の汚れやほこりが付いていたら、レンズをクリーニングします。

- 圧縮空気スプレーを使用してほこりを取り除きます。
- 汚れやしみが付いた場合は、レンズ クリーニング ペーパーまたはレンズ クリーナで湿らせた柔らかい布でレンズの表面を軽く拭きます。

⚠ **レンズは絶対に研磨剤でこすらないでください。**

プロジェクタケースのクリーニング

ケースのお手入れを行う前に、34 ページの " プロジェクタの終了 " に記載されている正しい手順でプロジェクタの電源を切り、電源コードを抜いてください。

- ほこりや汚れを取り除くには、柔らかい、けば立ちのない布で拭きます。
- 落ちにくい汚れやしみを取り除くには、水で薄めた中性洗剤で布を湿らせて、ケースを拭きます。

⚠ **ワックス、アルコール、ベンジン、シンナー、その他の化学洗剤は使用しないでください。こうした薬剤を使用すると、ケースを傷める場合があります。**

プロジェクタの保管

長期間プロジェクタを保管する必要がある場合、次の手順に従ってください。

- 保管場所の温度と湿度が、プロジェクタの推奨範囲内であることを確認します。詳細は、52 ページの " 仕様 " を参照されるか、販売店にお尋ねください。
- アジャスタフットを格納します。
- リモコンから電池を取り外します。
- プロジェクタを元の梱包または同等の梱包にしまいます。

プロジェクタの移動

プロジェクタを搬送するときは、元の梱包または同等の梱包で行うことを推奨します。お客様ご自身でプロジェクタを搬送される場合は、プロジェクタの元の梱包材料をご使用になるか、または専用のソフトキャリーケース (BenQ 代理店でご購入いただけます) をお使いください。

ランプについて

ランプの使用時間の計算

プロジェクタが作動している間、プロジェクタに内蔵されたタイマーがランプの使用時間 (時間単位) を自動的に計算します。ランプ時間の計算方法は次の通りです。

合計 (同等) ランプ時間
= 1 (省電力モードでの使用時間) +3/2 (標準モードでの使用時間)

省電力モードについての詳細は、41 ページの " 省電力モード " を参照してください。

省電力モードでのランプ時間は標準モードの 2/3 として計算されます。つまりプロジェクタを省電力モードで使用すると、ランプ時間を 1/2 ほど延長することができます。

警告メッセージ

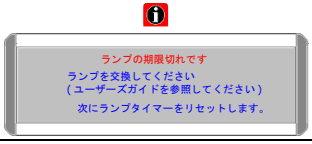
LAMP (ランプ) インジケータが赤に点灯した場合、またはランプの交換時期であることを示すメッセージが表示された場合は、新しいランプを取り付けるか、お買い上げの販売店にご相談ください。古いランプを使用すると、プロジェクタの誤動作の原因となり、ランプが破裂することもあります。

プロジェクタの警告メッセージについての詳細は、49 ページの " インジケータ " を参照してください。

ランプの温度が異常に高くなると、Lamp (ランプ) インジケータ ライト Temp (温度) 警告ライトが点灯します。この場合は、電源をオフにして 45 分間ほど放置し、プロジェクタを常温に戻してください。このようにしても電源をオンにしたときにランプ インジケータまたは温度インジケータが点灯する場合は、販売店にご相談ください。

次のランプ警告が表示されたら、ランプを交換してください。

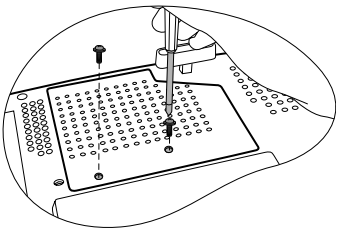
メッセージ	状態
	ランプの使用時間が 2000 時間に達しました。動作を最適化するために、新しいランプを取り付けてください。通常プロジェクタを省電力モードで起動している場合は (41 ページの " 省電力モード " を参照してください)、2950 時間のランプ警告メッセージが表示されるまでプロジェクタを使用することができます。
	ランプの使用時間が 2950 時間に達しました。新しいランプに交換しておくと、途中でランプが寿命で切れる不都合を避けられます。

	ランプの使用時間が 3000 時間に達しました。メッセージはスクリーン中央で約 30 秒間点滅し、同時にランプインジケータ が 40 秒間赤く点灯します。 この時点でランプを交換されるよう強くお薦めします。ランプは消費アイテムです。使用時間が長くなると、ランプは徐々に明るさを失います。これは正常な現象です。ランプが非常に暗くなったら、いつでもランプを交換してください。ランプの使用時間が 3000 時間を超えたら、ランプを交換してください。
	この警告メッセージが表示されると、プロジェクタは 40 秒以内にシャットダウンします。プロジェクタを正常に動作させるには、ランプを交換してください。

ランプの交換

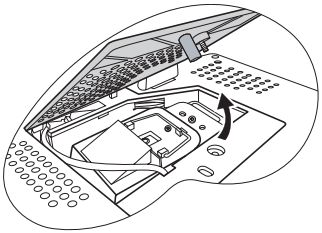
⚠
- **感電を防ぐため、ランプを交換する前には必ずプロジェクタの電源をオフにし、電源コードを抜いてください。**
- **重度のやけどを負う危険を防ぐため、ランプを交換する前に、最低でも 45 分間はプロジェクタを冷却してください。**
- **割れて鋭くなったランプのガラス片を取り除く場合は、指をけがしたり、内部部品を破損したりしないように、十分注意してください。**
- **指のけがや、レンズに触れることによる画質の劣化を避けるため、ランプを取り外すときに空のランプ ケースには触れないでください。**
- **このランプの中には水銀が入っています。ランプの処分は、地元の有害廃棄物規制条例にしたがって、正しい方法で行ってください。**

1. 電源をオフにして、プロジェクタをコンセントから抜きます。ランプが高温になっている場合は、やけどを防ぐためにランプを約 45 分間放置して常温に戻してください。
2. プロジェクタを上下に裏返します。ランプカバーのネジを緩めます。

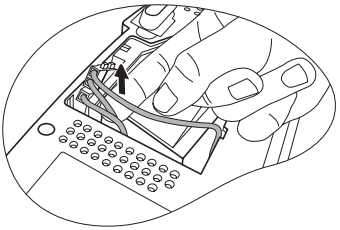


3. プロジェクタからランプカバーを外します。

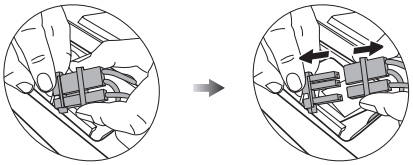
⚠ **ランプカバーを外したまま、電源を入れないでください。**



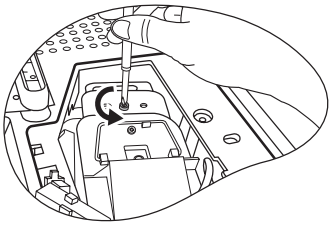
4. スロットからランプコードを外します。



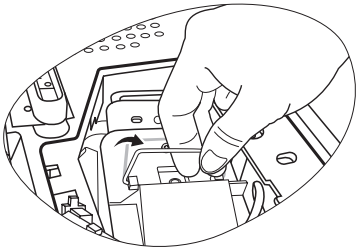
5. ランプコネクタをプロジェクタ側に押しながら上に持ち上げると、ランプが外れます。



6. ランプを固定しているネジを緩めます。

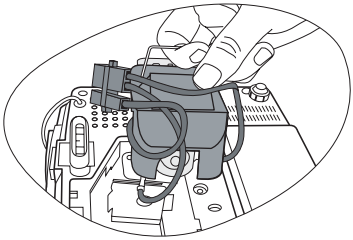


7. ハンドルを上に持ち上げてください。ハンドルを使ってゆっくりとランプをプロジェクタから引き出します。

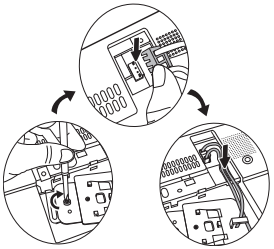


- **急激に引っ張るとランプが割れ、ガラスの破片がプロジェクタ内に散乱します。**
- **取り出したランプは、水のかかる場所、子供の手が届く場所、可燃物の付近には置かないでください。**
- **ランプを取り外した後は、プロジェクタ内に手を入れないでください。内部の光学部品に手を触れると、投写イメージの色が不均一になり歪む場合があります。**

8. 図に示す通り、まず新しいランプを手に持ち、ランプをプロジェクタのコンパートメントに合わせます。次にランプをプロジェクタにしっかりと挿入します。



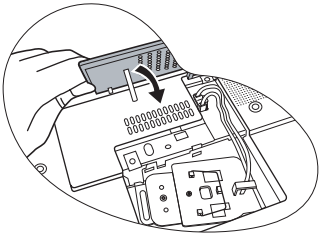
9. ランプを固定しているネジを締めます。



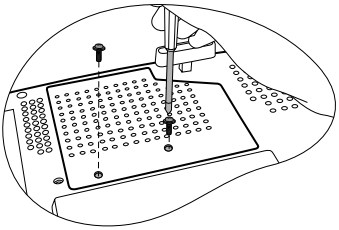
- **ネジの締め方がゆるいと接触が悪くなり、故障の原因になる場合があります。**
- **ネジを締め過ぎないでください。**

10. ランプコネクタをプロジェクタに接続します。
11. ランプコードをスロットに戻します。

12. プロジェクタにランプカバーを戻します。



13. ランプカバーを固定しているネジを締めます。



- **ネジの締め方がゆるいと接触が悪くなり、故障の原因になる場合があります。**
- **ネジを締め過ぎないでください。**

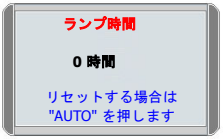
14. プロジェクタを再起動してください。

ランプカバーを外したまま、電源を入れないでください。

15. ランプカウンタのリセット

ランプを交換していない場合はリセットしないでください。ランプが破損する恐れがあります。

i. プロジェクタの **▲ 上** を 5 秒間押し、ランプの合計動作時間を表示します。
ii. プロジェクタまたはリモコンの **AUTO (自動)** を押し、ランプ時間を「0」にリセットします。
iii. OSD が消えるまで、5 秒ほどお待ちください。



温度情報

温度警告ライトが点灯している場合は、以下の問題が発生していることを示しています。

1. 内部温度が異常に高くなっています。
2. ファンが動作していません。

プロジェクタの電源をオフにし、認定サービス担当者にお問い合わせください。詳細は、49 ページの " インジケータ " を参照してください。

インジケータ

意味

- **ブランク** - : ライト消灯
-  : ライト点滅
-  : ライト点灯
- O : オレンジ色
- R : 赤色
- G : 緑色

ライト			状態と説明
電源	温度	ランプ	
電源の状況			
O	O	O	プロジェクタがたった今コンセントに接続されました。
O	-	-	スタンバイ モードです。
G	-	-	電源を入れています。
G	-	-	通常動作状態です。
O	-	-	1. 通常の冷却プロセスを経過せずに異常終了したため、プロジェクタの冷却に 90 秒必要です。**または** 2. 電源を切った後、プロジェクタは 90 秒間の冷却時間が必要です。
O	-	-	プロジェクタが自動的に終了しました。プロジェクタを再起動しようとしても、プロジェクタは再度終了します。販売店にお問い合わせください。
ランプの状況			
O	-	R	プロジェクタが自動的に終了しました。プロジェクタを再起動しようとしても、プロジェクタは再度終了します。販売店にお問い合わせください。
-	-	R	1. プロジェクタの冷却に 90 秒必要です。**または** 2. 販売店にお問い合わせください。

ライト			状態と説明
電源	温度	ランプ	
温度の状況			
-	R	-	プロジェクタが自動的に終了しました。プロジェクタを再起動しようとしても、プロジェクタは再度終了します。販売店にお問い合わせください。
-	R	R	
-	R	G	
-	R	O	
R	R	R	
R	R	G	
R	R	O	
G	R	R	
G	R	G	
G	R	O	
O	R	R	
O	R	G	
O	R	O	
-	G	R	
-	G	G	

7. トラブルシューティング

⑦ プロジェクタの電源がオンにならない。

原因	対応
電源コードから電源が来ていません。	電源コードをプロジェクタの電源コードソケットとコンセントに差し込みます。コンセントにスイッチがある場合は、スイッチがオンになっていることを確認します。
冷却プロセスの間にプロジェクタの電源をオンにしようとしています。	冷却プロセスが完了するまでお待ちください。

⑦ 画像が映らない

原因	対応
ビデオ ソースがオンになっていないか、正しく接続されていません。	ビデオ ソースをオンにし、信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
プロジェクタが正しく入力ソース機器に接続されていません。	接続を確認します。
入力信号が正しく選択されていません。	プロジェクタまたはリモコンの **SOURCE (ソース)** を押して正しい入力信号を選択します。
レンズ キャップが装着されたままです。	レンズ キャップを取り外します。

⑦ ぼやけた画像

原因	対応
投写レンズの焦点が合っていません。	ピントリングで焦点を合わせます。
プロジェクタとスクリーンの位置が正しく合っていません。	投写角度および方向、また必要であれば装置の高さを調整します。
レンズ キャップが装着されたままです。	レンズ キャップを取り外します。

⑦ リモコンが機能しない

原因	対応
電池が切れています。	電池を新しい電池に交換します。
リモコンとプロジェクタの間に障害物があります。	障害物を取り除きます。
プロジェクタからの距離が遠すぎます。	プロジェクタから 6 メートル (19.5 フィート) 以内の場所に立ちます。

⑦ パスワードが正しくない

原因	対応
正しいパスワードが入力されていません。	詳細は、24 ページの " パスワードの呼び戻しを行うには " を参照してください。

8. 仕様

プロジェクタの仕様

仕様はすべて予告なしに変更されることがあります。

全般

製品名	デジタル プロジェクタ
モデル名	MP510

光学

解像度	800 x 600 SVGA
表示システム	1-CHIP DMD
レンズ F/ 番号	F=2.57 (固定)
ランプ	160 W ランプ

電気仕様

電源	AC100-240V、2.5A、50-60 Hz (自動)
消費電力	250 W (最高)

機械仕様

重量	5.7 lbs (2.6 Kg)

入力端子

コンピュータ入力	
RGB 入力	D-Sub 15-pin (メス) x 1
ビデオ信号入力	
S ビデオ	Mini DIN 4-pin ポート x 1
ビデオ	RCA ジャック × 1
HDTV 信号入力	D-sub <--> コンポーネント RCA ジャック x 3、(RGB 入力経由)

コントロール (補修用)

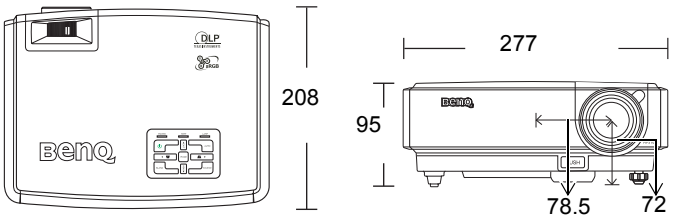
USB マウス コネクタ	A/B シリーズ x 1
RS-232 シリアルコントロール	ミニ Din 9 ピン x 1

使用環境条件

動作温度範囲	0ºC ～ 40ºC (海抜)
操作時の相対湿度	10% ～ 90% (結露なきこと)
動作高度	0–1499 m (0ºC–35ºC) 高地モードオンのとき 1500–3000 m（0ºC–30ºC）

外形寸法

277 mm (幅) x 95 mm (高さ) x 208 mm (奥行き)



タイミングチャート

PC 入力用にサポートされているタイミング

解像度	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	ピクセル周波数 (MHz)	モード
640 x 480	31.469	59.940	25.175	VGA_60
	37.861	72.809	31.500	VGA_72
	37.500	75.000	31.500	VGA_75
	43.269	85.008	36.000	VGA_85
720 x 400	31.469	70.087	28.322	720 x 400_70
800 x 600	37.879	60.317	40.000	SVGA_60
	48.077	72.188	50.000	SVGA_72
	46.875	75.000	49.500	SVGA_75
	53.674	85.061	56.250	SVGA_85
1024 x 768	48.363	60.004	65.000	XGA_60
	56.476	70.069	75.000	XGA_70
	60.023	75.029	78.750	XGA_75
	68.667	84.997	94.500	XGA_85
1280 x 1024	63.981	60.020	108.000	SXGA_60

コンポーネント YPbPr 入力用にサポートされているタイミング

信号フォーマット	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)
480i(525i)@60Hz	15.73	59.94
480p(525p)@60Hz	31.47	59.94
576i(625i)@50Hz	15.63	50.00
576p(625p)@50Hz	31.25	50.00
720p(750p)@60Hz	45.00	60.00
720p(750p)@50Hz	37.50	50.00
1080i(1125i)@60Hz	33.75	60.00
1080i(1125i)@50Hz	28.13	50.00

ビデオおよび S ビデオ入力用にサポートされているタイミング

ビデオモード	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	カラー副搬送波周波数 (MHz)
NTSC	15.73	60	3.58
PAL	15.63	50	4.43
SECAM	15.63	50	4.25 または 4.41
PAL-M	15.73	60	3.58
PAL-N	15.63	50	3.58
PAL-60	15.73	60	4.43
NTSC4.43	15.73	60	4.43

9. 保証及び著作権

限定保証

BenQ は、本製品が正常に使用および保管される場合に限り、本製品の材料および製造上の瑕疵がないことを保証します。

保証を受ける際には、購入日の証明が必要となります。保証期間中に本製品に瑕疵があることが判明した場合、BenQ の全責任と、お客様に対する全面的な補償は、瑕疵のある部品の交換（工賃を含む）に限られます。保証サービスを受ける場合は、製品を購入した販売店に直ちに連絡してください。

重要：お客様が BenQ の文書による指示に従わずに操作を行った場合はこの保証は無効となります。特に本製品は環境湿度 10% から 90% の間、温度 0ºC から 40ºC の間、高度 10000 フィート以下の環境でご使用になり、ホコリが立ちやすい場所での使用はお止めください。この保証により、お客様には特定の法的権利が与えられます。また、在住している国によっては、お客様にその他の権利が与えられることもあります。

詳細は、弊社ホームページ BenQ.com をご覧ください。

著作権

Copyright 2006 by BenQ Corporation. All rights reserved. 本書のいかなる部分も、BenQ Corporation の事前の書面による同意なく、電子的、機械的、磁気的、光学的、化学的、手動その他の手段を問わず、複製、転載、改変、検索システムへの保存、他言語またはコンピュータ言語への翻訳を行うことはできません。

免責

BenQ Corporation は、明示的または暗示的を問わず、本書の内容に関して、特に保証、商業的可能性、特定目的への適合性に関しては、いかなる表明または保証もいたしません。また、BenQ Corporation は、お客様に改訂または修正の通知を行う義務を負うことなく、本書を改訂したり、本書の内容を随時修正する権利を有します。

* DLP、Digital Micromirror Device、および DMD は、Texas Instruments の商標です。その他の商標については、それぞれの企業または組織が著作権を保有しています。

10. 法規

FCC 規則

B クラス：本デバイスはラジオ周波エネルギーを発生、使用し、さらに放射する可能性があり、指示にしたがってインストールおよび使用しなければ、ラジオ通信に有害な障害を与える場合があります。しかしながら、特定の方法で設置すれば障害を発生しないという保証は何もありません。このデバイスがラジオや TV 受信装置に有害な障害を与える場合は（デバイスの電源を一度切って入れなおすことにより確認できます）、障害を取り除くために次の方法にしたがってください。

- 受信アンテナの方向を変えるか、設置場所を変える
- このデバイスと受信装置の距離をあける
- このデバイスの受信装置とは別のコンセントに接続する
- ディーラーか経験のあるラジオ /TV 技術者に問い合わせる

EEC 規則

本装置は、EMC (Electronic Magnetic Compatibility：電磁的両立性) に関する ECC 指令 89/336/EEC に適合することが試験の結果確認されています。

MIC 規則

B クラス装置（家庭用情報 / 電気通信装置）

本装置は家庭用として EMC 登録を受けているため、本製品は住居地域を含む任意の地域で使用できます。

WEEE 指令

ヨーロッパ共同体における家庭からの電子および電気製品の廃棄について。

本製品または梱包材料に記載されているこの記号は、これを家庭廃棄物として破棄することができないことを意味しています。電子または電気装置の再利用規定に基づいて処理してください。本装置の再利用についての詳しい情報は、お住まい地域の市役所、本製品を購入された店、または家庭廃棄物処理機関にお問い合わせください。素材の再利用は自然環境の保護に役立つと共に、人類の健康や環境を確実に保護する方法で再利用されます。

